

# H. みちと足

この分野は、「まち」に関わる要素のうち、特に道路、歩道、自転車道など人が移動する空間である「みち」と、移動手段を意味する「足」のうち誰でも利用できる公共交通を対象としています。

こんな環境や社会にしたい！！



環境まちづくりビジョン

## 【道】

歩車道の整備が充実し  
自然にも人にもやさしい道が続いている

## 【歩行空間】

街路樹や沿道の植物に親しみを覚え、  
歩きたくなる路が続いている

## 【公共交通】

魅力ある公共交通機関に  
自然と市民が集まり、  
便利で快適な移動ができる



## 環境指標と数値目標

(詳細は資料編参照)

No.	指標名	現状値 [H.14]		短期目標 [H.20]	長期目標 [H.35]
H1	幹線道路の歩道整備率	69	%	72	75
H2	リユース自転車貸し出しステーション数	—	箇所	5	20

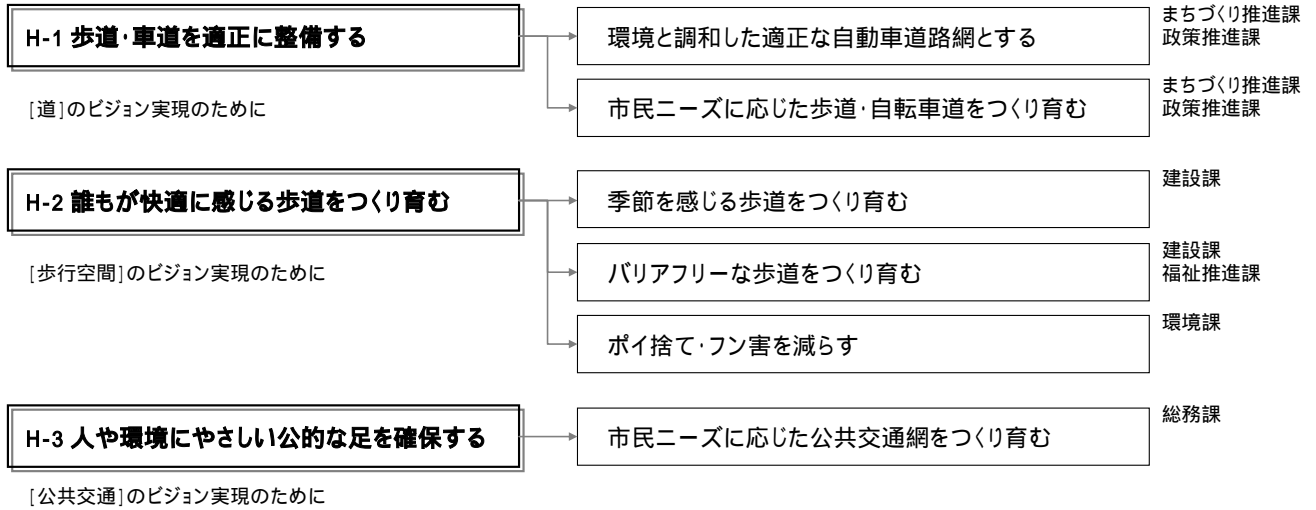
[ 検討・把握する環境指標 ] くるりんばす利用者数、自転車・歩行者事故発生件数

「環境まちづくりビジョン」を実現するためにこうしていこう！



環境まちづくりプログラム

施策の体系



H-1 歩道・車道を適正に整備する

大気環境保全のために渋滞緩和と通過交通をスムーズにし、かつ環境と調和した適正な自動車道路網を整備していきます。さらに、車に頼らない移動交通手段として徒歩と自転車利用を進めるとともに、そのニーズを喚起するような歩道や自転車道を整備していきます。

[施策メニュー]

渋滞箇所の解消策の推進

歩行者や自転車にやさしい歩道ネットワークづくり、 駅周辺・学校・商業地における歩道の整備・管理、 天白川や岩崎川を軸とした「水と緑」の歩行者・自転車道ネットワークの形成



歩道や街路樹が整備された道路



市役所を起点に市内を巡る「くるりんばす」

## H-2 誰もが快適に感じる歩道をつくり育む

歩道の量的な整備がまず求められますが、整備する際には、植栽帯などを活用した季節感の演出、障害者や高齢者などに配慮したバリアフリー<sup>29</sup>に配慮していきます。また、ポイ捨てやフン害のない歩道にし、誰もが快適に感じる歩道をつくり育てていきます。

### 〔施策メニュー〕

樹種や日向日陰などを考慮した親しみのわく街路樹の整備、街路植栽帯の市民管理の推進、住宅の緑地とのコーディネート、自然の音環境の保全、アスファルトでない舗装<sup>30</sup>の採用

十分な歩道スペースの確保、歩道への移動式プランターの設置など路上駐車防止、段差解消などバリアフリー化の推進、看板・置物による通行障害の解消

フン害・ポイ捨て防止策の検討

## H-3 人や環境にやさしい公的な足を確保する

市民の市内の移動手段は、多くの人が自家用車に頼っています。大気環境保全やエネルギー資源の保全のためにも人や環境にやさしい公共交通機関を充実させていきます。

### 〔施策メニュー〕

大学等のスクールバスの利用など公共交通手段の拡大、くるりんばすの市民ニーズの調査、東部丘陵線（H.S.S.T.）<sup>31</sup>への有効なバス路線の確保、公共交通網の維持発展を図るための検討、地下鉄東部線・東部丘陵線早期建設の推進、鉄道3駅へのバスアクセスの強化、パークアンドライド<sup>32</sup>・キスアンドライド<sup>33</sup>需要への対応、バス停付近の環境整備、くるりんばすと名鉄バスによる新たなルートの設定、近隣市町の巡回バスの相互乗り入れの検討



国道153号をアンダーパスする歩道・自転車道

<sup>29</sup> 段差の解消、点字ブロックなどの障害者や高齢者などの物理的障壁（バリア）を除去すること。

<sup>30</sup> 間伐材を使った透水性や弾力性のあるウッドチップ舗装、吸水・保水機能のある吸水性自然砂樹脂舗装など。

<sup>31</sup> 2005年春開業予定の地下鉄藤ヶ丘駅から愛知環状線八草駅までを結ぶ路線。磁気浮上式システムで、車輪がなく、磁気で浮上し、リニアモーターで推進するので、騒音・振動などの公害問題も解消。低コストで建設でき、優れた性能と経済性を持つ。

<sup>32</sup> 自宅から最寄り駅まで自分で自家用車を運転し、駅周辺に車を駐車して、そこから都心部まで電車等の公共交通機関を利用する交通手段のこと。自家用車の利便性と大量高速輸送機関である鉄道の双方の利点を生かした結合輸送の一種。

<sup>33</sup> 「パークアンドライド」に類して、最寄り駅まで家族に自家用車で送ってもらい、そこから電車等へ乗り継ぐ交通手段のこと。